

化学委員会高分子化学分科会（第25期・第3回）

議事要旨

出席者（17名）：（第三部会員）君塚信夫、菅裕明、（連携会員）秋吉一成、石原一彦、上垣外正己、片岡一則、岸村顕広、栗原和枝、小林定之、佐々木園、高原淳、竹岡裕子、藤田照典、丸山厚、三浦佳子、山子茂、吉江尚子

欠席者：（連携会員）片岡一則

I 日 時 令和3年12月24日（金）10：05～11：05

II 会 場 遠隔会議（Zoom）

III 議 事

1) 高分子化学分野の国内外状況

①大型研究課題の検討

②提言発出に向けた検討

上述の2項目を包含する形で、今後の学術のあり方や、社会に向けた未来のビジョンの提案に関する意見交換が行われた。その際、きちんとした学術の視点から社会課題に関する話題を発信すべき、アカデミア側が研究として社会課題に取り組む場合にその姿勢を改善すべき、との意見があった。今回の議論も踏まえて、来年度中にシンポジウムを実施する方向性が吉江委員長から示された。

2) 連絡会議の状況報告

カーボンニュートラル連絡会議

第1回の会合（9月16日）に、山子幹事が吉江委員長の代理で出席し、会議の内容について報告があった。高分子化学としても関わる必要がある内容であるので、当分科会としても継続して議論に関わっていくことが確認された。

持続可能な発展のための国際基礎科学年2022（IYBSSD2022）連絡会議

丸山副委員長より、第1回会合（11月22日）に参加した旨の報告があった。また、ワーキング・グループへの参加が求められ、学術フォーラム企画ワーキング・グループに所属することとしたとの報告があった。合わせて、シンポジウム実施による協力をしていく方向が示された。その後、シンポジウム実施に関する意見交換がなされ、当分科会として継続して議論をしていくこととした。

3) その他

岸村委員から、IUPACのPolymer divisionのpresidentであるChristine Luscombe先生が、OISTに着任されたという報告がなされた。今後、日本のIUPAC委員として扱われるとのことで、適宜連携していくことを検討する。